

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 74 2020年3月9日 JR東労組

20春闘を全組合員でたたかおう！



3月9日 川崎支部はOBの先輩も一緒に激励に来てくれました！

20春闘の山場は今週です！

春闘相場をリードする電機や自動車大手の交渉が最終盤を迎えている。世界経済の減速に加え、新型コロナウイルスの感染拡大も企業業績に逆風となっており、前年の水準を確保できるかどうか焦点になりそうだ。

7日、日立製作所や三菱電機など電機大手6社の経営側と労働組合側の代表者が東京都内で交渉し、基本

2020春闘

3/8 読売

賃上げ 前年水準焦点

電機・車大手交渉大詰め

給を底上げするペースアップ(ベア)で、前年と同額以上となる月額1000円以上を確保する見通しとな

	2019年		20年要求
	要求	回答	
電機連合	3000円	1000円	3000円
トヨタ	非開示 (総額1万2000円)	非開示 (総額1万700円)	非開示 (総額1万100円)
ホンダ	3000円	1400円	2000円
日産	3000円	3000円	3000円

※20年春闘の要求で、ホンダはベアの1000円を含む、日産はベアに相当する賃金改善分。総額はベアに定昇分などを含めたもの

労組側は生活水準の向上などを求めてそろって3000円を要求したが、経営側は「新型コロナウイルスの影響が出るまでの経営環境は、前年と大きく変わったわけではない」として、電機大手は労組側の要求と経営側の回答を横並びで行う「統一交渉」が慣例で、妥結額も同じだったが、労組の上部組織である電機連合は今春闘で初めて、妥結する方針を打ち出した。業績や事業内容のばらつきが年々広がっているため、このため、一部企業では金額の上積みなどを検討している。

一方、自動車大手では経営環境が厳しくなっている

として慎重姿勢が目立つ。トヨタ自動車労組の要求は、ベアや定期昇給分などを含めた総額が月額平均1万1000円、すでに昨年の妥結額を下回っている。経営側も(賃金は)すでに日本トップレベルの水準で、これ以上引き上げるのは競争力の低下につながりかねない(幹部)として、高い水準の回答には慎重だ。ホンダも要求水準が昨年を下回っている。日産自動車は、2019年10〜12月の連結決算で11年ぶりに最終利益が赤字に転落するなど業績が悪化しており、「例年とは違って厳しい雰囲気だ」(労組幹部)という。

3月9日 郡山総合車両センター支部の檄色紙&仙台新幹線運輸区分会の檄布をいただきました！



横手運輸区分会から届きました！



3月9日 浦和支部・さいたま車両センター一分会のみなさんが、激励に来てくれました！



3月9日読売新聞

20春闘を職場の仲間とたたかおう！